

日本銀行金沢支店では、このほど北陸地域の繊維企業の特徴や歴史、今後の競争力向上に向けた取り組みについて、「ほくりくのさくらレポート」として取りまとめ、公表しました。当地の繊維企業が、成長を続ける北陸経済の一翼としてどのような活躍を見せるのか、今後の動向に注目したいと思います。

## 北陸の繊維業

## 競争力向上の取り組みに注目

### 成長を続ける当地経済の一翼

北陸地域（特に石川県、福井県）では、繊維業は一大産業となっています。すなわち、域内での各製造業種のプレゼンスを表す特化係数（北陸の製造品出荷額等構成比を全国の同構成比で除算して算出）をみると、他の製造業種よりも高い数値を示している（図1）ほか、製造業全体に占める従業者数についても、生産用機械に次ぐ約10%を占めています。

当地の繊維業は、①サプライチェーンの川中段階（織工程、染色加工工程）を担う企業が多い、②化学合成繊維のウエートが高い、③委託加工型（特定の合繊メーカーから原糸を預かり、織物にして加工賃収入を得る方式）のビジネスモデルを構築する企業が多い、といった特徴がみられます。これは、湿潤な気候や豊富な水資源といった気候風土面における優位性に加えて、過去の度重なる不況や市場構造の変化に対して各企業が競争力向上に取り組んで対応してきた歴史的な経緯によって、形作られてきたものです。

長い歴史の中で、当地の繊維業は、高い技術力を背景に基幹産業としての地位を確立してきましたが、昭和後期以降は、日米繊維交渉に伴う対米繊維輸出の自主規制やプラザ合意後の大幅な円高進行など、市場環境の構造変化を受けて、事業所数や製造品出荷額等は過去数十年にわたって減少傾向をたどっています（図2）。また、足元では、安

### 逆境を乗り越えてきた歴史も

価な海外製品との競争が激化しており、当地繊維業を取り巻く環境は非常に厳しくなっています。

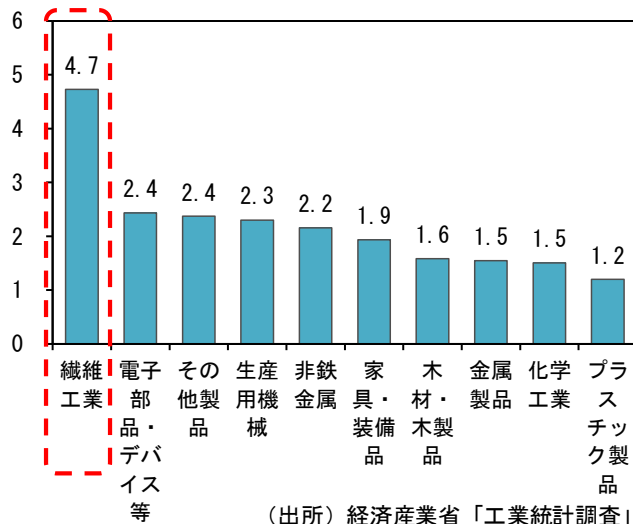
もっとも、当地繊維企業の中には、こうした足元の厳しい環境の中でも、（1）グローバルな生産体制の構築（低価格帯衣料品の海外生産比率の引き上げ）、（2）高付加価値化（ハイブランドなファッション衣料や高機能のスポーツ衣料、産業用・医療用ユニフォームへの注力）や自販能力の向上（自社ブランドの立ち上げ等）による衣料品市場での差別化、（3）繊維業の中で培った技術を応用した非衣料事業（自動車内装材、航空機・建材〈炭素繊維〉、医療〈貼付剤基布・人工血管基材〉、電子機器、食品包装等）への進出、といった市場競争力の向上に向けた様々な取り組みを通じて、成長を続ける先が相応に存在しています。

今後、当地繊維業を取り巻く市場環境は、引き続き厳しいものになると予想されますが、歴史を振り返ると、北陸地域の繊維企業は、過去の市場環境や産業構造の変化に直面するたびに、新たな技術の開発や事業内容の転換といった企業努力を行い、世界の市場を席卷してきました。今後、当地繊維企業が、成長を続ける北陸経済の一翼としてどのような活躍をみせるのか、その動向に注目したいと思います。

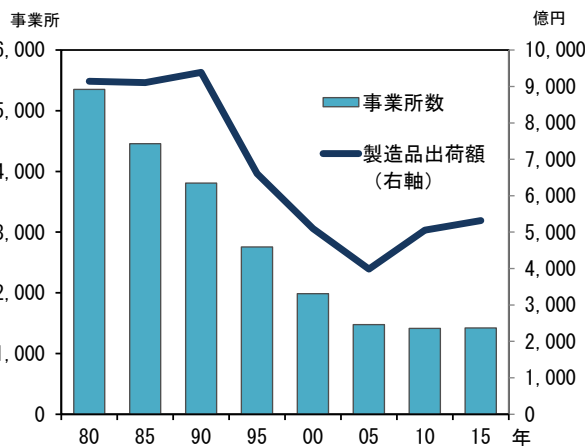
（七條和也＝日本銀行金沢支店営業課企画役補佐）

日銀金沢支店発

【図1】製造業の特化係数



【図2】繊維業の事業所数・製造品出荷額等（北陸）



（注）特化係数は、北陸3県の製造品出荷額等構成比を、全国の製造品出荷額等構成比で除算して算出（計数は2016年実績、従業者4人以上の事業所）